

式ヲ被調ケル略○中且鳳輦ヲ留テ御思案有ケル處ニ竹林院ノ中納言公重卿馳參ジテ被申ケルハ西園寺大納言公宗隱謀ノ企有テ臨幸ヲ勸メ申由只今或方ヨリ告示候略○中ト被申ケレバ、
略○中聽テ還幸成ニケリ、

〔神皇正統記後醍醐〕高氏は申うけて東國にむかひけるが、征夷將軍ならびに諸國の總追捕使を望みてけれど、征東將軍になされて、ことごとくはゆるされず、ほどなく東國はしづまりにけれど、高氏のぞむ所達せずして、謀叛をおこすよしきこえしが、建武二年乙亥十一月十日あまりにや、義貞を追討すべきよし、奏狀を奉るすなはちうちのぼりければ、京中騒動す、追討のため中務卿尊良親王を上將軍として、さるべき人々もあまたつかはさる。武家には義貞の朝臣をはじめて、おほくの兵を下されしに、十二月に、官軍引しりぞきぬ、關々をかためられしかど、次の年丙子の春正月十日、官軍またやぶれて、朝敵すでにちかづく、よりに比叡山東坂下に行幸後醍醐して、日吉の社にぞましゝける、

〔日本書紀十二〕八十七年仁德○仁崩略○中爰仲皇子畏有事將殺太子中履密興兵

圍太子宮略○中太子便居於石上振神宮於是瑞齒別皇子正反知太子不在尋之追詣然太子疑弟王

之心而不喚略○中爰瑞齒別皇子歎之曰今太子與仲皇子並兄也誰從矣誰乖矣然亡無道就有道其

誰疑我則詣于難波伺仲皇子之消息仲皇子思太子已逃亡而無備時有近習隼人曰刺領巾瑞齒別

皇子陰喚刺領巾而誂之曰爲我殺皇子吾必敦報汝乃脫錦衣禪與之刺領巾恃其誂言獨執矛以伺

仲皇子入廁而刺殺即隸于瑞齒別皇子於是木菟宿禰啓於瑞齒別皇子曰刺領巾爲人殺已君其爲

我雖有大功於己君無慈之甚矣豈得生乎乃殺刺領巾即日向倭也夜半臻於石上而復命於是喚弟

王以敦寵仍賜村令屯倉

〔建內記〕嘉吉元年六月廿四日己丑、今夕有前代未聞珍事、赤松彥次郎教康略○註依諸敵御退治嘉禮